

甲州市教育ビジョン 2045

困難な時代をしなやかに生き抜く、
創造的な学習者を育むために

これは、私たち全員の共同作業です。



なぜ今、教育の進化が求められるのか？

予測困難な時代に生きる私たち。
次世代が自らの人生を舵取りし、
民主的で持続可能な社会を築くために、
教育は進化を求められています。

全ての子供に「民主的な社会の創り手」としての資質・能力を育むことが不可欠です。

私たちが育むべき未来の「甲州人」とは 甲州市教育ビジョン 2045：基本理念

「人・自然・ふるさとを愛し、
予測困難な社会を『協働』で
切り拓く甲州人の育成」

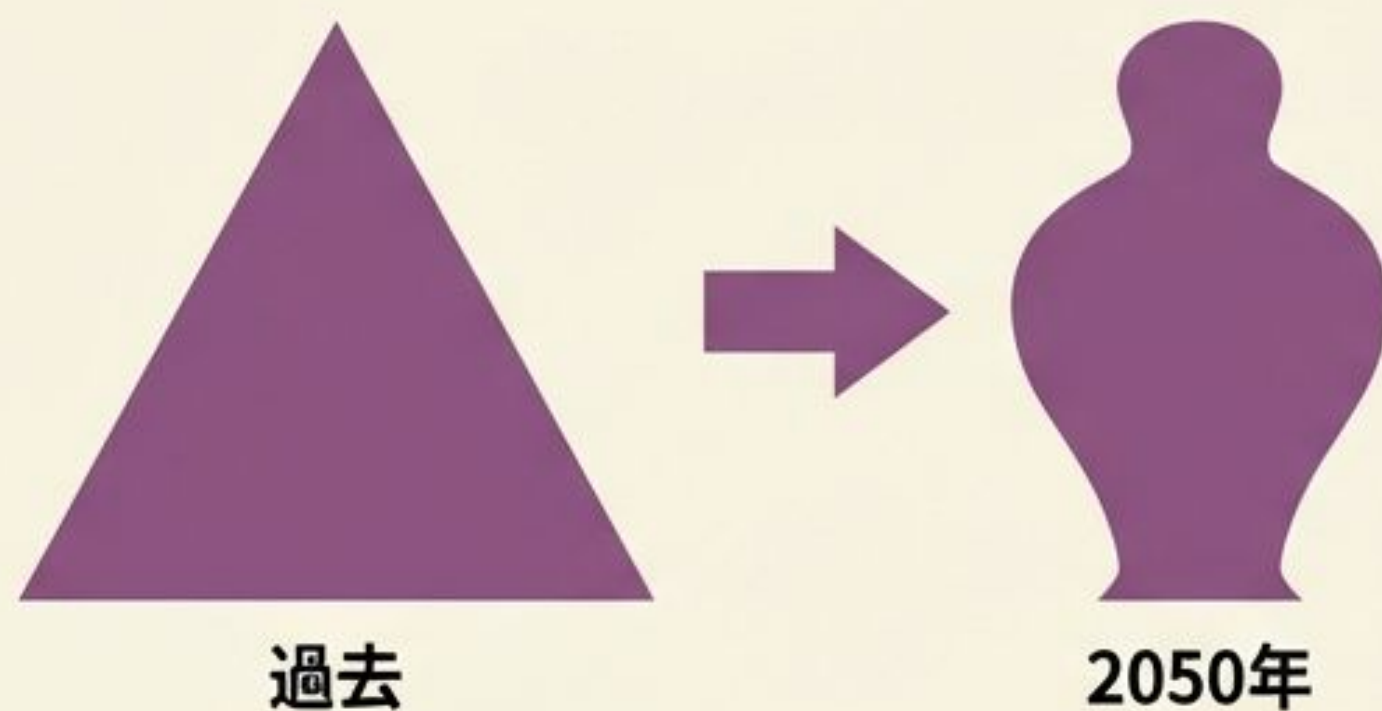
20年後の人口減少社会を見据え、文部科学省が示す
「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な
充実を、甲州市独自の地域資源とICT基盤を最大限に
活用して実現する。



私たちが直面する、避けられない未来

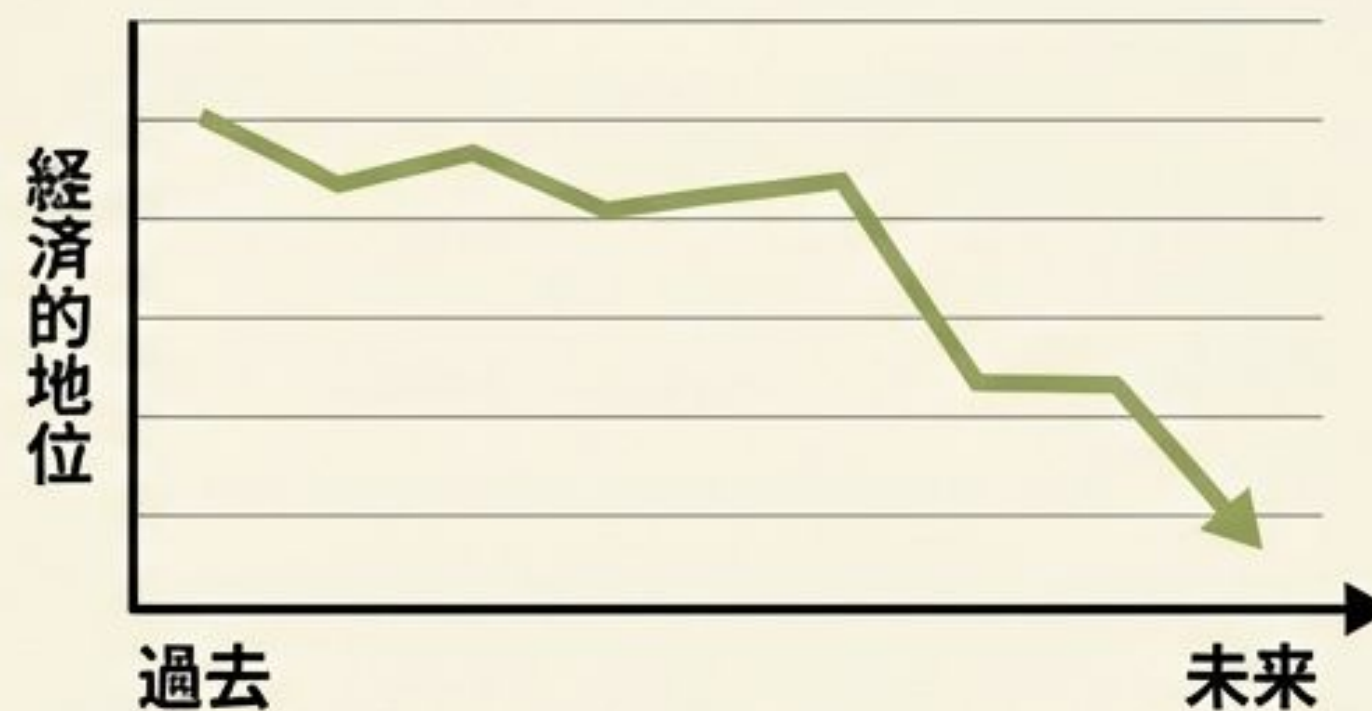
日本の構造的課題

人口減少



2050年には日本の人口は約1億人に減少見込み。

経済的地位の低下



世界における競争力の低下と、賃金・生産性の停滞。

教育の未来を考えることは、社会全体の未来を考えることに他なりません。

世界の変化から取り残される人材育成の危機



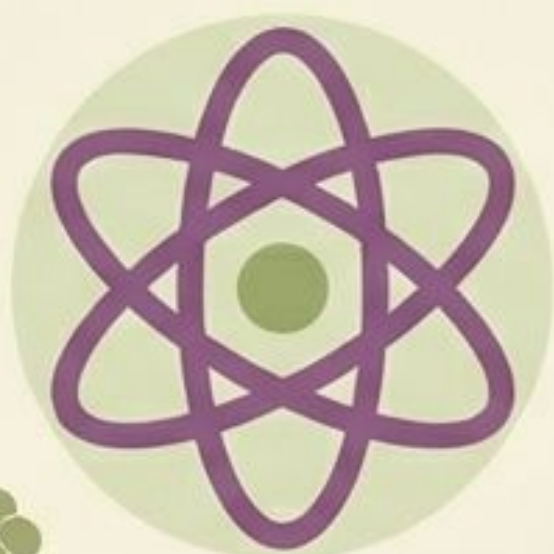
デジタル競争力の遅れ
28位

世界28位(特にデジタル/技術スキルで遅れ)



深刻な人材不足
54.5万人

2030年には54.5万人の先端IT人材が不足すると予測



STEM分野の低迷
17%

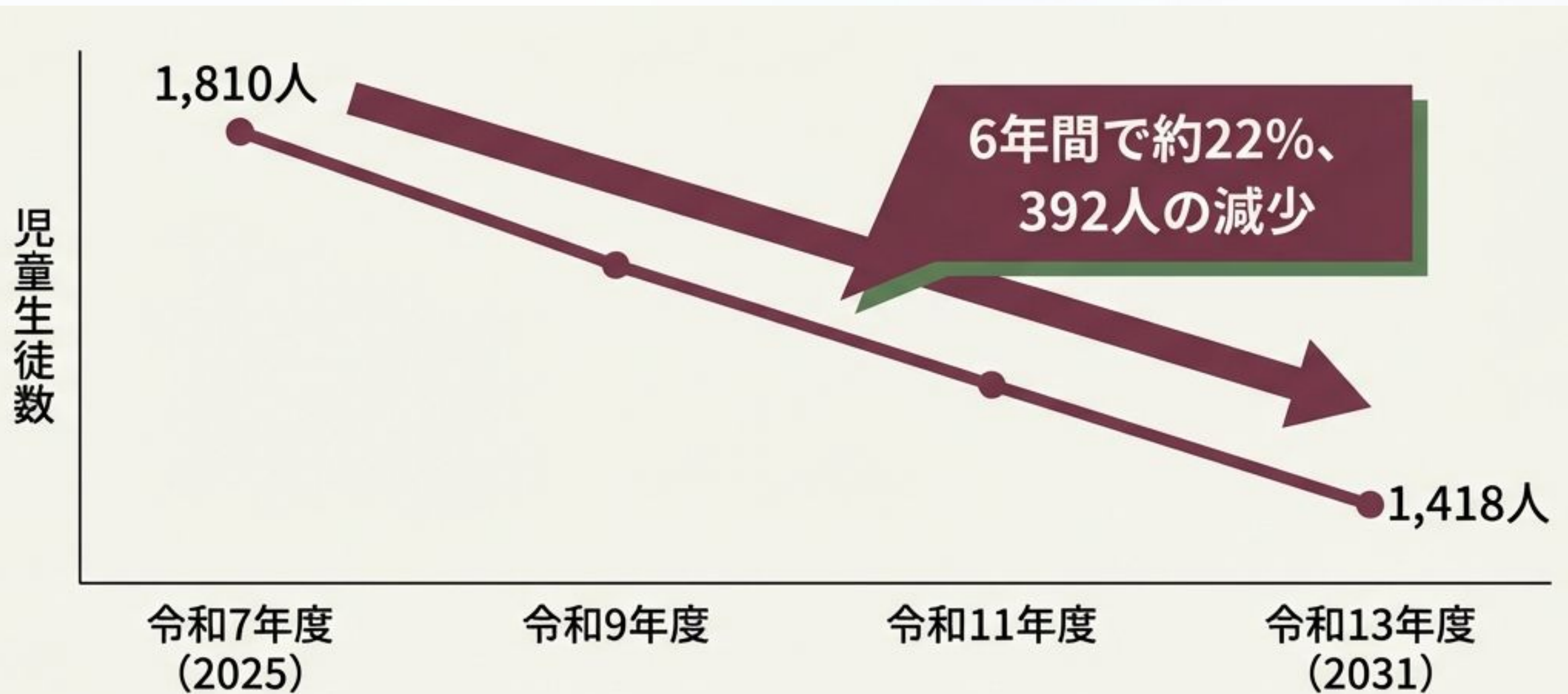
大学学部段階のSTEM入学者はOECD平均27%に対し日本は17%



高度人材の不足
588人

人口100万人当たりの修士号取得者は英国4,216人に対し日本はわずか588人

私たちの足元で起きている変化：甲州市の子供の数の未来



全国的な傾向と同様、避けられない現実があります。

【重要データ】 学校別児童数推計

各地域の学校が置かれている現状です。

令和13年4月1日見込

小学校	1年	2年	3年	4年	5年	6年	合計
塩山南	46	57	56	56	53	60	328
塩山北	7	21	14	16	15	14	87
奥野田	12	19	16	13	16	16	92
大藤	2	3	7	7	4	7	30
神金	1	5	7	4	4	6	27
玉宮	1	3	2	4	2	4	16
松里	6	8	6	16	11	12	59
井尻	9	7	4	7	9	7	43
勝沼	4	7	6	15	11	7	50
祝	4	7	7	13	5	4	40
東雲	9	7	9	17	8	9	59
菱山	2	6	5	5	6	7	31
大和	1	5	0	5	2	4	17
合計	104	155	139	178	146	157	879

子供たちの学びの質に直結する喫緊の課題

市内小学校13校中7校が複式学級になる見込み



近い将来、市内小学校13校中7校が複式学級になる見込みです。これは、子供たちが多様な考えに触れ、切磋琢磨する機会が減少することを意味。「集団の中で学ぶ」という学校本来の機能が維持できなくなるリスクがあります。

教育を進化させる「チャンス」



子供たちへの効果 (For Students)

「たくましい社会性」の獲得

小学校段階から「適正な集団」の中でも揉まれることで、意見の違いを恐れず、他者と協働できるレジリエンス(精神的回復力)を育てる。



教育システムへの効果 (For the Education System)

教育の「質 (Excellence)」と「公正 (Equity)」の同時実現

ICTによる個別最適な学び(基礎学力の保障)と、教師の手厚い伴走により、質の高い教育機会をすべての子供に提供する。

なぜ今、教育改革か：変化の時代が求める新たな学び



VUCA（予測困難な時代）

生成AIの発展や社会の変化に対応する柔軟性。



社会の多様化

多様な価値観の中で協働する力。



求められる力の変化

「正解主義」や「同調圧力」への偏りから脱却し、独自の視点に価値が置かれる時代へ。



未来の教育に向けた3つの羅針盤（次期学習指導要領）

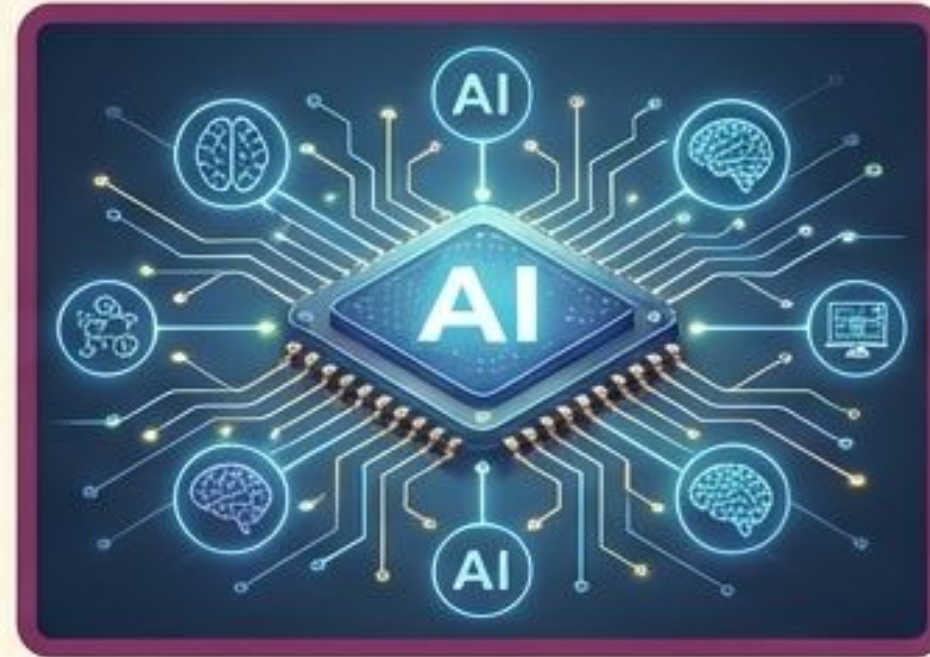


課題解決への回答：甲州型ハイブリッド・モデル

適正規模への再編(リアル)



先端技術(デジタル)



世界に通じる教育都市・甲州



20年後の人口減少社会を見据え、地域資源とICT基盤を最大限に活用。
「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実させます。

子供たちの成長と「たくましい社会性」



- 小学校段階から「**適正な集団**」の中で、揉まれることが重要です。
- 意見の違いを恐れず、他者と**協働**できるレジリエンス（**精神的回復力**）が育ちます。
- 多様な考えに触れる機会が、子供たちの世界を広げます。

私たちが築く未来(1)：子供たちの成長と教育の進化

教育の「質」と「公正」の同時実現



**ICTによる個別最適な学び（基礎学力の保障）
教師の手厚い伴走により、質の高い教育機会を
すべての子供に提供します。**

私たちが築く未来(2)：「選ばれる甲州市」の実現へ

質の高い教育は、最も強力な都市ブランドです。

都市ブランドへの効果

BEFORE (現状)

小規模で不安な学校配置



転換

AFTER (未来)

適正規模で、最先端のリアル×デジタル教育が受けられるまち



持続可能な行財政への効果

学校施設の
総量適正化

(好循環)

教育ソフト
事業へ再投資

維持管理費
の圧縮

目指すのは単なる「再編」ではなく、「真の少人数教育の実現」

Excellence: 教師の「余白」創出



教師が一人ひとりの表情や思考を見取れる「認知的な余白」を確保。適切なタイミングで支援介入を行い、学びの質を高めます。

Equity: 多様性の確保



グループ替えが可能で、多様な意見が出る集団サイズを確保し、切磋琢磨する環境を作ります。

学校は、「成長するために集まる場所」へ 人間関係(対話と納得解)を学ぶ場へ



「他者と折り合いをつける」「チームで何かを成し遂げる」経験は、リアルな集団の中に！

地域全体がキャンパスになる：甲州版「リアルワールド・カリキュラム」



スマート・ヴィンヤード (産業×データ)

センサーでブドウ畑を管理し、
データに基づき栽培・販売。



歴史・観光DX (文化×発信)

武田家ゆかりの史跡をARで
復元し、ガイドを制作。



空き家リノベーション (福祉×まちづくり)

空き家を「地域の居場所」に
改修し、運営ルールを策定。

すでに始まっている未来への土台

甲州市「夢をかなえる学び」のプロジェクト

1

2

3

夢をかなえる学び
を支える甲州市
教職員研修



夢をかなえる
学びの推進



子供たちの
小さなSOSを
見逃さない取組



日本トップレベルの知性を、私たちの教室へ



クラウド版研修
『甲州市ティーチャーズノート』



赤坂 真二

上越教育大学教職大学院教授



河村 茂雄

早稲田大学教授



高橋 純

東京学芸大学教授



小川 晋

春日井市立高森台中学校



早川 優子

文部科学省 教科調査官



松山 康成

東京学芸大学教育学部講師



佐野 史和

山梨大学小児科特任助教



大野 歩

山梨大学教授

GIGAスクール構想を十全に活用し、
学校の枠を超えた「知の横展開」を加速。

最先端の技術で、学びの可能性を拓く



リーディングDX スクール事業

教育実践の先駆者としての
役割



生成AIパイロット スクール事業

AIの教育利用に関する
研究と実践



全日本教育工学研究協
議会全国大会での表彰

(2025.11)



授業時数特例校 制度の活用

カリキュラムの柔軟な運
用で探究的な学びを実現

学びが、地域を動かす力になる

授業時数特例校制度を活用した、地域課題解決型学習（PBL）

奥野田小学校（令和7年度）



「みはらしの丘」の魅力化プロジェクト（6年生）



地域のごみゼロ作戦（5年生）



熊野神社例大祭の復活プロジェクト（4年生）



重川の氾濫を防ぐ方法の探究（理科横断）

勝沼小・東雲小・菱山小・大和小（令和8年度）



エネルギー環境教育（水素） |
河川環境教育（上日川ダム） |
SDGs学習（4パーミルイニシアチブ）

松里中・塩山北小・松里小・井尻小
（令和8年度）

グローバル社会に生きる英語力の習得（Yamanashi English Action）



データと連携で、一人ひとりの SOSに応える



データ活用

- WEBQU
- 心の羅針盤
- 登校支援シート



チーム支援

- スクールカウンセラー
- 幼保こ小・小中連携
- ほっとルーム



個別最適化

- 授業のユニバーサルデザイン
- 民間施設との連携

組織的・協働的な支援体制

これからの学校は、
「成長するために集まる場所」へ

「他者と折り合いをつける」
「チームで成し遂げる」経験は、
リアルな集団の中に

甲州市の未来を、共に創りましょう。